

環境技術実証モデル事業に関する意見・要望等（石川県）

1. 事業全般、手続き等について

実証機関の公募申請

項目	石川県の意見・要望
公募時期	事業開始を5月頃とした場合、実証機関の公募は前年度に実施しておくべき。
募集から締め切りまで	庁内関係機関での調整、申請資料作成等を勘案して最低でも一ヶ月以上必要。

実証対象技術の公募

項目	石川県の意見・要望
実証申請者からの質問・問い合わせ	「県外の事業者も申請できるのか」との問い合わせが多い。都道府県は自県の環境問題の解決や地場産業発展に責任があり、本事業で他県の事業者にどのような姿勢で臨むべきか、考えさせられることが多い。

実証対象技術の選定

項目	石川県の意見・要望
実証申請書	技術の概要（原理・仕組み）を申請時に提出させるべきである。 技術選定基準の「環境保全効果等」を申請時に提出させるべきである。
その他技術の選定における課題	類似・同種の技術が複数申請された場合、それらを差別化することは困難である。（グリーストラップに微生物分解剤等を投入する技術の申請が3件あった。）既存の排水処理装置に改良・改造を加えることで、追加的な水質改善効果を発揮するといった技術では、その追加的效果を十分に実証するための比較・対照試験を義務づけ、その準備を環境技術開発者に負担させるべきである。

実証試験実施場所の選定・実証試験計画の策定

質問項目	石川県の意見・要望
実証試験実施場所の所有者との調整	夜間の測定について、所有者から承諾が得られにくい。 電気代等の公共料金の分担が難しい。
その他実証試験計画の策定に関する課題	本事業は商業段階にある技術を実証するという立場だが、一般には実証試験も技術開発の一段階と考えられており、そのつもりでいる事業者は多い。

実証試験の実施

質問項目	石川県の意見・要望
監視・測定等の人員配置	現場調査に都道府県から人員を割くことは容易ではない。現場調査は連携機関へ委託することを前提として、制度設計すべきではないか。
品質管理システム	具体的な品質管理システムの考え方が想定しにくい。どのレベルのシステムの構築が求められているのか、よりわかりやすくしてもらいたい。
その他実証試験の実施に関する課題	品質監査のチェックリストを、何をもとに、どのような考え方で作成すればよいのか分かりにくかった。データ検証の方法についても同様。

その他事業全般について

質問項目	石川県の意見・要望
中小・ベンチャー企業等への支援	体系化された実証試験要領に基づいて客観的に実証される技術であることから、ユーザーがその効能を認めることを前提として、開発した技術の普及促進が図られることになり、支援という機能を果たすと考える。

2. 実証試験要領の内容について

「 . 実証試験の準備」について

流入水の特性評価の位置づけが不明確である。実証試験実施場所の選定や実証試験計画策定に先だって、実際に測定することは大変困難である。

「運転及び維持管理実証項目」の「使用資源」には、微生物製剤の項も設けるべきである。

「運転及び維持管理実証項目」の「環境影響」のうち、臭いについては、建屋や設置場所にも影響されるものであり、測定方法等について検討が必要である。

「 . 実証試験実施上の留意点」について

「データの品質管理」なるものの概念は、例えば食品の GLP に類するものとして捉えているが、実証試験では具体的には何をすればよいのか曖昧である。表 12 のように、精度管理を方法として具体的に書き下してもよいのではないか。

「試料採取から分析操作、結果の集計にいたるまで精度管理」するとは、それぞれで発生しうる誤差を評価し、結果に反映させるということか。実際の実証試験では、かなりの数のサンプルを取る必要があり、このような精密な誤差評価は非現実的であり、また求められているとも考えられない。本実証試験に要求されている精度管理の方針について、より適切なものに改めるべきではないか。

データ検証 (p35) のイメージが掴みにくい。可能であれば、具体的な手順を示すべきである。